

# 瓦 版

## 海のハンター展 特別号

日本初公開 液浸標本  
300kg オスのホホジロザメ



佐藤さんと300kg オスのホホジロザメ



さまざまなサメが大集合

現在、世界最強の日本で初のホホジロザメ。海洋生物の中標本の展示に挑戦し、肉性魚類、ホホジロザメ成魚の全身液浸かつ速く泳ぐための構造で噛む力が一・八トタ。これを企画した、水平尾翼のような構造と第一位を誇る彼沖縄美ら島財団の佐藤も観察できる。この役らの歯の縁は、ノコ藤圭一さんによれ割は充分には解明されギリ状で獲物を切りば「ホホジロザメのていはいない。裂くときに力を発揮特徴はなんといつて 多くの労力と時間する。今回は国立科も顎と歯である」とアイデアを重ねて製作学博物館『海のハンター展』最大の見どころである、このホホジロザメの驚くべき能力を報告する。国立科学博物館は口を再現したのだ。

また彼らは、珍しい特徴である三日月形の尾鰭を持つ。効率よく、

### 海の食物連鎖 喰うか喰われるか



機能は押える、刺す、切る、潰すがある

今回の注目はそれぞれの捕食方法。エネルギーの奪い合いともいえる彼らの捕食は、鋭い歯を使うものもあれば、自らが持つ毒を相手に刺すものもある。また食べられないための食は、鋭い歯を使うものもあれば、自らが持つ毒を相手に刺すものもある。また食べられないための食は、鋭い歯を使うものもあれば、自らが持つ毒を相手に刺すものもある。

チャンスは10月2日まで

### 海のハンター展



七月七日、国立科学博物館「海のハンター展」の開会式は、多くの関係者が集まる中開催された。主催者を始めとする方々からの挨拶。修者の紹介、テープカットが行われた。国立科学博物館の林良博館長(写真左から2番目)は「海のハンター展では捕

手段も非常に大切だ。体を大きく見せて飲み込まれないようにするものもあれば、ヌタウナギのように粘液を放出するものもある。

レイアウトデザイン 阿部

編集 編集部一同